

平成30年12月11日

# 南の風 289

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

遅くなりましたが、288号の続きです。

第11節の第1試合は、79対86で栃木が勝ちました。得点概要と簡単なスタッツです。

	12	1Q	25		
川崎 79	24	2Q	22	86	栃木
	26	3Q	20		
	17	4Q	19		

	2 P	3 P	F T	O R	D R	FBP	T O
川崎	54→30	10→3	18→10				
	60点	9点	10点	7本	32本	7回	11回
	55.6%	30%	55.6%				
栃木	47→22	26→11	16→9				
	44点	33点	9点	10本	27本	17回	6回
	46.8%	42.3%	56.3%				

※FBPは速攻で得点した回数、TOはターンオーバーの回数

私の感想です。栃木の勝因を3つに絞ります。

「栃木の勝因を一つだけ挙げろ。」と言われれば、ずばりリバウンドです。川崎のビッグラインアップ(2m以上の3人)とほぼ互角に渡り合いました。特にギブス選手のリバウンドには目を見張りました。ジャンプカとファーストタッチ後の強いキャッチは、それだけで観客を十分魅了していました。またシュート軌道に合わせたタイミングのいいジャンプは、ミニバスや中学、高校の選手のお手本となったと思います。

勝因の2つ目は、ディフェンスです。1試合通して足が止まらなかった印象なのですが、特に4Qの集中した守りは素晴らしかったです。川崎のビッグマン3人に対して、マンツーマンからゾーンにチェンジし目先を変え関係を封じたり、オールコートプレスに出てミスを誘ったりして相手を揺さぶりました。またディフェンスリバウンドを5人が身体を張って、奪うことができたことも勝敗を分けました。戦略を練った上でのディフェンスでした。

3つ目は、シュートの確率の高さです。1Qからチーム全体のシュート決定率が高く、特に3Pは要所でしっかり決め切ることができました。中でも渡邊選手の5/7は際立った数字です。2Pシュートでは、ロシター選手のカットイン、ペリメタでのジャンプショット、遠藤選手、鷗選手の中距離ショット、そしてギブス選手のリバウンドショットやパワードライブからのゴール下ショットと、オンザコートの5人が万遍なく得点していました。相手の川崎からすると、抑え所が中々限定できずに苦労したと思います。たいへん見応えのあるゲームでした。因みに2戦目も栃木が勝ちました。(75対79)